

1 土地・気象

1. 岐阜県の地勢

本県は本州のほぼ中央に位置し、海には面していないが3千米以上の山地から海面に近い平野まであり、「飛山濃水の地」といわれる。すなわち、県の北部および東部の大部分は山地で、南西部に濃尾平野の一部である美濃平野がある。東部県境は飛騨山脈で、その北部の3千米以上の高峻な山々は、日本を代表する山岳美で日本アルプスの名があり、その南に乘鞍、御嶽等の火山がある。西部県境は両白山地、美濃越前山地、鈴鹿山脈等で千米～2千米の山が続き、北部に白山、大日ヶ岳等の火山をのせ、南部に伊吹山等がある。また美濃越前山地付近では断層に刻まれて不規則な山塊をなし、根尾谷は活断層で有名である。この東西県境の高い山地の間に、それより一段と低い飛騨高地、美濃高原があり、北部から南部へ高度と起伏を減じながら美濃平野に続いている。

地質構造上からは、岐阜県全域は西南日本の内帯に入るので、その特色として古生層や花崗岩で覆われているところが多い。加茂郡から西方の美濃山地の大部分および飛騨東部は秩父古生層と呼ばれていた中古生層であり、東濃地方から加茂東部、益田、大野、吉城の各郡は花崗岩類や流紋岩類、変成岩類に広く覆われている。その他は、中世代のジュラ紀層が北西県境と古川付近の山地に2、3の塊をなし、新生代の第三紀層は東濃地方および可児、加茂の各郡や養老、北飛騨の一部に見られる。

広い山地は水量豊かな河川の涵養地で、ほぼ乗鞍岳、位山、大日ヶ岳等の山を結んだ山地を分水界として、長大な河川が太平洋側と日本海側にそそいでいる。宮川と高原川が合流した神通川と、庄川が日本海にそそぎ、太平洋へは長野県から発する木曾川に飛騨川が合流し、長良川、揖斐川等の大河川とともに濃尾平野に集って伊勢湾にそそぐ。これらの河川は山間地や中流部の隆起地帯で谷を深く刻んで峡谷をなし、景勝地となっている。

美濃平野は大部分が沖積平野で、北部は各務原の如き洪積台地につながり、西方は急な山地で限られ、その麓に小扇状地を形成している。沖積地は北部のゆるい傾斜をなす扇状地と、南部の平坦な三角州に大別される。三角州は木曾、長良、揖斐等の河川の堆積によるものであり、地味肥沃で穀倉地帯を形成している。扇状地では排水がよく、河川の河床は比較的浅く小石が多い。三角州では排水が悪く、河川の流ればゆるやかで、河床は深く砂か泥で潮の干満の影響を受ける。扇状地の末端の境付近では「ガマ」と呼ぶ湧水地帯があり、平野の小河川の源となり三角州地帯は地下水も豊かである。

2. 岐阜県の位置

注：人口重心は、平成7年国勢調査による。

方位	地名	経度	方位	地名	緯度
極東	吉城郡 上宝村	東経 137° 39' 16"	極南	海津郡 海津町	北緯 35° 7' 49"
極西	揖斐郡 坂内村	東経 136° 16' 14"	極北	吉城郡 神岡町	北緯 36° 27' 42"
東西	1 2 4 . 1 3 0 km		南北	1 4 7 . 6 9 1 km	
県庁	東経 136° 43' 30" 北緯 35° 23' 17"		海拔 6.8m		
国の人口重心	東経 136° 58' 06" 北緯 35° 37' 01"		郡上郡美並村（長良川鉄道半在駅の東約1825m）		
県の人口重心	東経 136° 54' 24" 北緯 35° 28' 14"		関市倉知		